

分水施設利用者の声を聞く！
新たな商品開発に活かすヒントとは

海洋深層水の利活用



株式会社ウェーブ滑川
ますかた あきひと
業務部長 升方 章人氏



平成9年入社以来、滑川市が設置した海洋深層水利用施設（ほたるいかミュージアム、タランピア、アクアポケット、深層水足湯）や滑川海洋深層水取水施設にて、深層水設備を中心に施設維持管理業務を担当。

アクアポケット開業20年 個人利用者の動向と声

滑川市にある海洋深層水分水施設の升方氏から、利用者の声をもとにした現場での気づき、課題、ニーズを共有いただき、そこから、海洋深層水を活用した商品開発や事業展開へのヒントを導き出すことを目的とした。

水深333メートルから生まれる5種類の深層水

ウェーブ滑川は、滑川市の富山湾岸エリアで「道の駅ウェーブパークなめりかわ」や「ほたるいかミュージアム」などの施設を管理運営しています。ほたるいかなど深海生物の展示に必要な深層水の取水設備が整っていたこともあり、「アクアポケット」（以下、当施設）の開業に繋がりました。

当施設では水深333メートルから取水した「原水」と、濃縮脱塩装置で処理した「高濃縮水」「脱塩水」「塩水」「ミネラル脱塩水」という5種類の海洋深層水を個人や事業者提供しています。細菌（一般生菌）がほとんど検出されない清浄な水で、栄養が豊富。こうした特徴を活かしてご利用いただいています。

暮らしの様々なシーンで魅力を発揮

個人と事業者によって、深層水の用途は異なります。個人は生活用水として、事業者は商品開発・製造の原料としての利活用が多くなっています。個人利用者のニーズを把握するためにアンケート調査を実施していますが、事業者にとっても商品開発のヒントになると思われますので、ご紹介いたします。

個人の利活用は、飲食用、入浴用、観賞魚の飼育用、家庭菜園用など多用途にわたりますが、用途によって使用する深層水の種類は

違います。例えば脱塩水は、そのまま飲料用としてご利用いただいております。「飲みやすく、コーヒーやお茶、焼酎の水割りに使うとまろやかに感じる」、「家庭菜園の水やりに使用すると野菜の甘味が強くなった」という声をいただきます。塩分濃度3%程度の原水は、塩を加えて煮物や干物、漬物などに使用されている他、観賞魚の飼育で人工海水よりも利用しやすいというご意見や、入浴用に使えば身体が温まり、肌が滑らかになるという声も聞かれます。高濃縮水は塩分濃度13%程度のため、薄めて使うという方もいます。また、塩づくりや味噌づくりにも利用されているケースもあり、普通の塩を使うよりも美味しいと評判です。保水効果があるということで、ミネラル脱塩水を化粧水として使っている方もいるそうです。

水と塩に魅力的な商品開発の可能性

「美味しい」「肌に良い」「温まる」という高い評価は開業当時から変わりませんので、その魅力は今後も不変だと考えています。少し高額になったとしても、5種類それぞれの特徴を活かした魅力的な商品であれば需要はあると思います。

また、発想の転換として塩の提案にも可能性を感じています。深層水から作られた塩はすでに商品化されていますが、改めてその魅力を見直し、滑川の特産品としてさらに発展させられないかと模索しております。

開業から20年経過しているため一部で老朽化も進んでいます。設備や機械の更新も決まりました。深層水の増産や高濃度化、商品の多様化が可能になると期待しています。来年度の工事完了を目指していますので、次の20年に向けた新たなスタートとして取り組んでいきたいと思っています。